

「男子は将来、宗族を守るんだぞ」とか、  
「女に負けて悔しくないのか」とか。

男子への声かけは、励ましのようであり、  
僕たちにはプレッシャー、  
女子には失礼だと思います。



ジェンダー規範の本質をつく、つぶやきです。「女に負けて悔しくないのか」、今も、このような「男女の優劣関係」への無意識の偏見による大人から子どもへのことばがあることに胸が痛みます。

そのことばに、「男女の対等な関係」を願い、女子への敬意を込めて「僕たちにはプレッシャー／女子には失礼」と賢明に向き合う中学2年生の男子がいてくれることは、男女共同参画・ジェンダー平等の未来への希望！です。

中学生にしてすでに、「これから」の男の子のたちも、男性中心の社会で強調される「男らしさ」のプレッシャーを、「これまで」の大人の男性のように感じています。

「男らしさ・女らしさ」から「自分らしさ」へ。  
私たちのジェンダーの「現在」をジェンダー平等の視点で、問い直すことは、性別にかかわらずすべての子どもたちの幸福追求の道が拓かれるようにと願う、私たち大人の責任です。